

う え む ら か ず ひ で

植村 和秀

法学部 教授
法学士／京都大学ホームページ URL
なし

主な研究業績

【著書（単著）】

- 『折口信夫 日本の保守主義者』、中公新書、2017年。
- 『ナショナリズム入門』、講談社現代新書、2014年。
- 『日本のソフトパワー 本物の〈復興〉が世界を動かす』、創元社、2012年。
- 『昭和の思想』、講談社選書メチエ、2010年。
- 『「日本」への問いをめぐる闘争 京都学派と原理日本社』、柏書房、2007年。
- 『丸山眞男と平泉澄 昭和期日本の政治主義』、柏書房、2004年。

【著書（共著）】

- Kazuhiro Takii / Michael Wachutka hrsg., Staatsverständnis in Japan, Nomos, 2016.
- 佐藤卓己・渡辺靖・柴内康文編『ソフト・パワーのメディア文化政策』、新曜社、2012年。
- 河原祐馬・島田幸典・玉田芳史編『移民と政治』、昭和堂、2011年。
- 竹内洋・佐藤卓己編『日本主義的教養の時代』、柏書房、2006年。
- 河原祐馬・植村和秀編『外国人参政権問題の国際比較』、昭和堂、2006年。
- 玉田芳史・木村幹編『民主化とナショナリズムの現地点』、ミネルヴァ書房、2006年。
- 廣岡正久・木村雅昭編『国家と民族を問いなおす』、ミネルヴァ書房、1999年。
- 野田宣雄編『よみがえる帝国』、ミネルヴァ書房、1998年。

キーワード

日本政治思想史、ナショナリズム

研究テーマ Research theme

昭和期の政治思想

概要 Overview

昭和期日本の政治思想について、他地域と比較しながら全体の流れを整理する、ということを試みています。

昭和期の日本国家に暮らした人々は、日本が世界強国へとのし上がり、世界戦争に敗北し、政治的に大きく変化し、今度は経済強国へのし上がる、という経験をしました。この政治的変動のなかで、人々が政治についてどのように考え、それがどのような行動へと結びつき、どのような結果をもたらしたのか。ここに私の関心はあります。

それを適正に理解し、後世に伝えるためには、とりわけ、同時代の他地域との比較が欠かせません。他の国家に暮らした人々の動向を参照し、20世紀の世界の状況のなかに日本の事例を位置付けていくことで、人々が何を問題とし、何に苦悩し、どのように考えて行動したかを、よりバランス良く理解できると思います。これまではドイツの事例を特に念頭に置いてきましたが、今後は、比較の対象を増やしていく予定です。

それともう一つ、多数の人々の思想を理解していくためには、キーワードに基づく整理分類が必要となります。その際には、保守主義、急進主義、ナショナリズム、社会主義、自由主義、民主主義といったキーワード自体を問い直し、その意味をできるかぎり明確にしていく作業が欠かせません。キーワードの整備と思想の整理分類とを連動させて研究を進めています。

令和の時代に昭和を問い直すことは、時期的に急がねばならない課題です。時の流れは、昭和戦後期でさえも彼方に追いやりつつあり、昭和の記憶のない世代がますます増えています。日本国家が日本史上、もっとも強く世界を揺さぶった時代について、その当時の人々の考えを明らかにすることは、昭和の記憶を多少は持ち、日本語で研究のできる私が、世界に貢献できる課題であると考え、研究に取り組んでいます。

応用分野 Application areas

20世紀の歴史、昭和期の歴史についての研究、思想と政治・政策の関係についての研究と連動可能です。

共同研究等へのニーズ Need for joint research

昭和戦前期の言論空間と思想・政治・政策の関係。同時期の宗教と思想・政治・政策の関係。同時期の文部省や内務省と昭和維新運動との関係。これらのテーマについて、現在特に関心を持って研究を進めています。関連するものであれば、科学研究費などによる共同研究への参加が可能です。